

2008年3月期  
中間期決算説明会

2007年11月1日  
ヤマハ株式会社

# 2008/3期 上期決算の概要



## 上期の状況

- 対前回予想(8/1発表)、前年同期とも増収増益
- 売上高は、ほぼ前回予想並み。対前年同期では、主力の楽器を中心に、6.1%(162億円)の増収で、為替影響を除いた実質ベースでも、2.7%(72億円)の増収
- 営業利益は、対前回予想 21.7%(38億円)の増益。対前年同期では 53.9%増(75億円)  
為替影響は対前回予想 +12億円、対前年同期 +51億円
- 中間純利益はヤマハ発動機株式売却益の発生により、対前年同期増益
- 上期末在庫は、為替要因と9月末に予定していた電子金属事業譲渡の延期による在庫増を除けば、ほぼ前回予想並みの水準。前年同期に対しては実質微増

## 2Qの状況

- 2Qは対前回予想、前年同期増収増益。楽器、金型・部品事業は対前回予想、前年同期増収増益。電子機器・金属事業は対前回予想、前年同期増益
- リゾート4施設は10月1日事業譲渡完了。電子金属事業は当初計画を2ヶ月遅らせ、11月30日に事業譲渡予定(連結決算上の影響は無し)

# 2008/3期 上期業績



## ▶ 対前年同期、前回予想增收増益

	07/3 (上期) 実績	08/3 (上期) 実績	前年 同期比	08/3 (上期) 前回予想	予想比	(億円) (2Q) 実績
売上高	2,645	2,807	+6.1%	2,805	+0.1%	1,455
営業利益 (営業利益率)	138	213 (7.6%)	+53.9%	175	+21.7%	140
経常利益 (経常利益率)	229	216 (7.7%)	▲5.8%	170	+27.1%	141
当期利益 (当期利益率)	175	308 (11.0%)	+76.3%	300	+2.7%	76

持分法損益	102	1		0		1
-------	-----	---	--	---	--	---

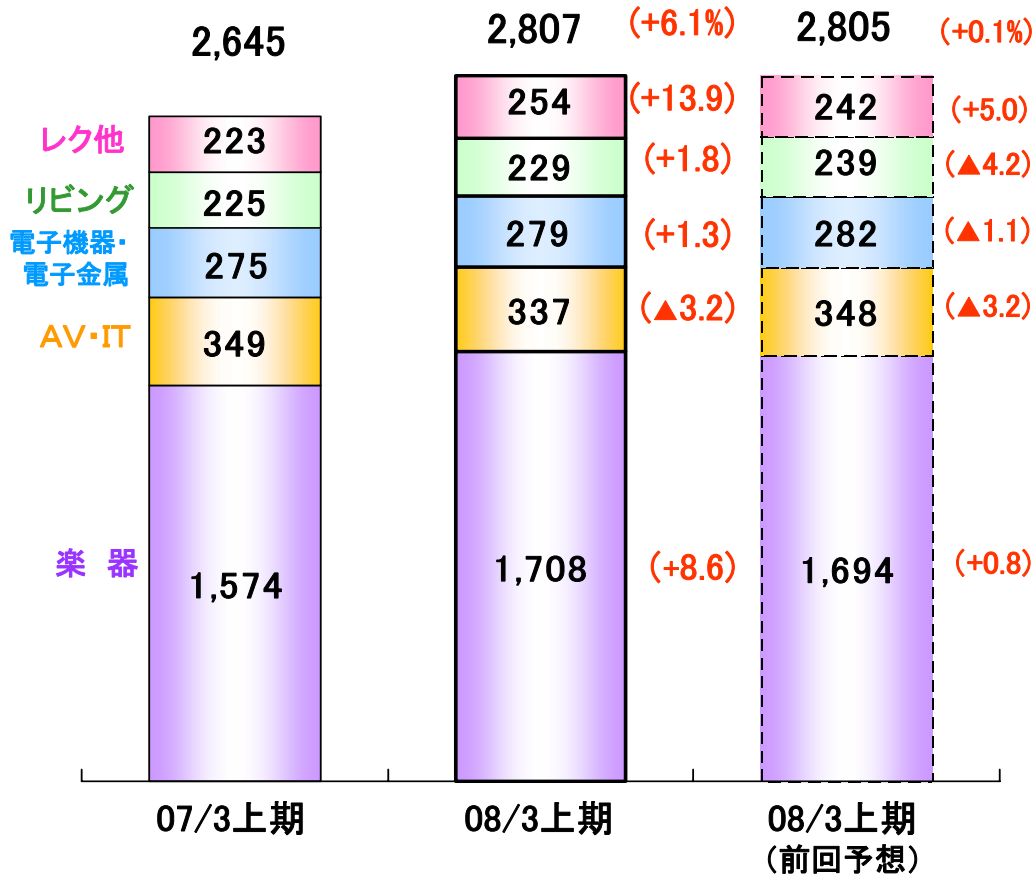
### 為替レート

売上高	US\$	115	119	118	118
	EUR	146	162	159	162
利益	US\$	115	120	117	119
	EUR	140	158	155	160

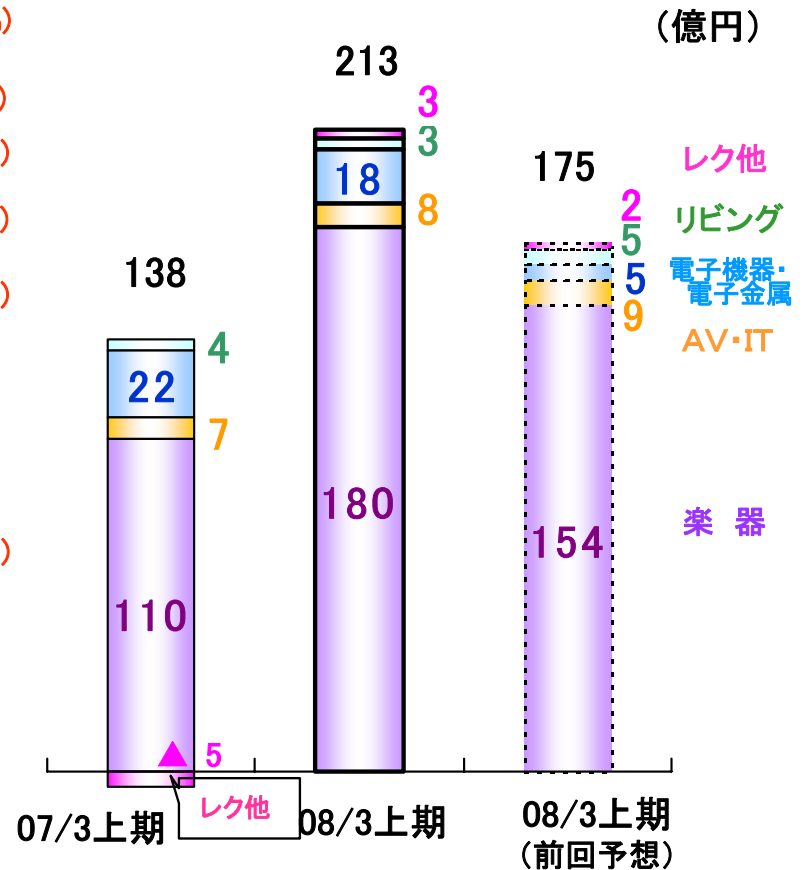
# 2008/3期 上期事業別業績



## 売上高



## 営業利益



( )内は前期比  
または  
前予想比

前年同期との比較での為替影響は+90億円  
(楽器+70億円、AV・IT+20億円)  
また、前予想との比較では+25億円  
(楽器+19億円、AV・IT+6億円)

前年同期との比較での為替影響は+51億円  
(楽器+45億円、AV・IT+7億円)  
また、前予想との比較では+12億円 (楽  
器+11億円、AV・IT+1億円)

# 2008/3期 通期業績予想



## ▶ 通期売上高、利益を上方修正

(億円)

	07/3実績			08/3予想			伸び率 (前回予想)
	上	下	計	上	下	計	
売上高	2,645	2,859	5,504	2,807	2,773	5,580	+1.4% (5,570)
営業利益 (営業利益率)	138	139	277 (5.0%)	213	122	335 (6.0%)	+20.9% (320)
経常利益 (経常利益率)	229	197	426 (7.7%)	216	104	320 (5.7%)	▲24.9% (300)
当期利益 (当期利益率)	175	104	279 (5.1%)	308	72	380 (6.8%)	+36.2% (355)

持分法損益                      102                      76                      178                      1                      1

### 為替レート

売上高	US\$	115	119	117	119	115	117	116
	EUR	146	154	150	162	155	159	157
利益	US\$	115	118	117	120	115	117	116
	EUR	140	148	144	158	155	157	155

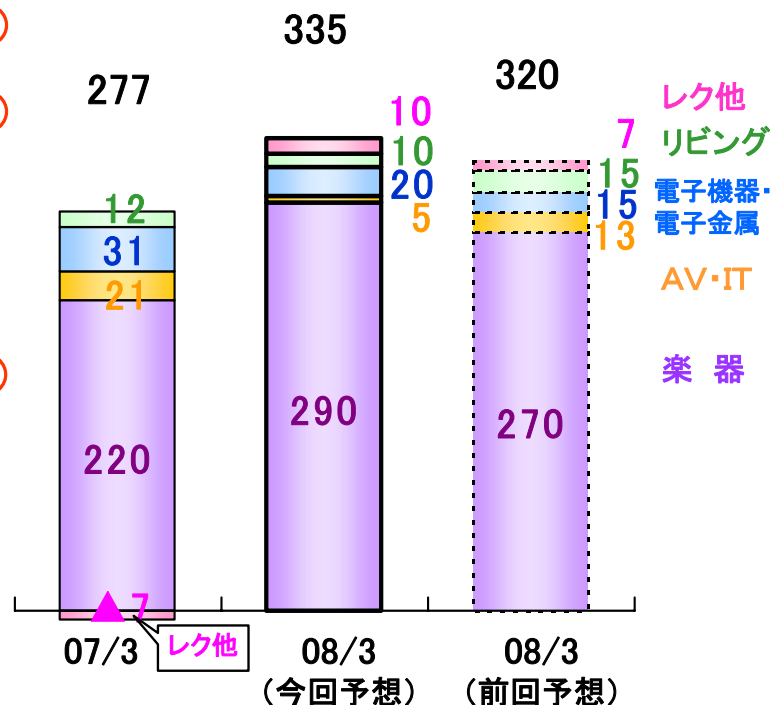
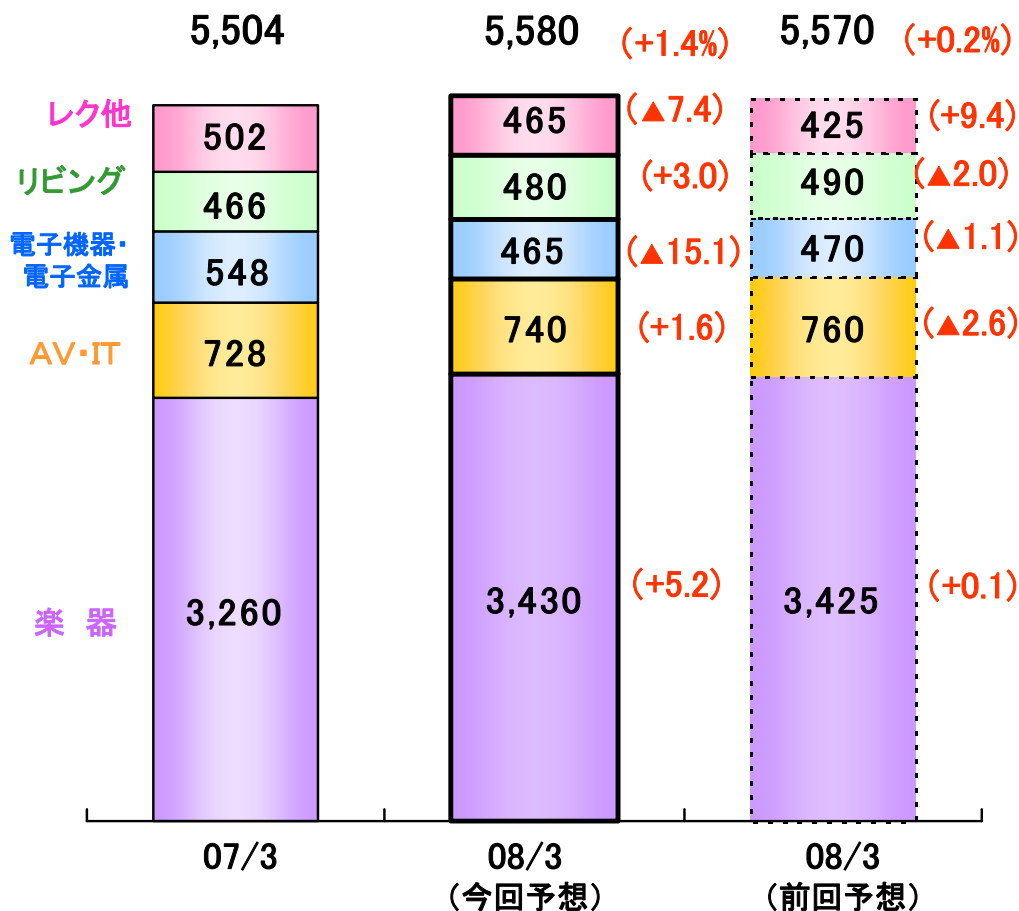
# 2008/3期 通期事業別業績予想



## 売上高

## 営業利益

(億円)



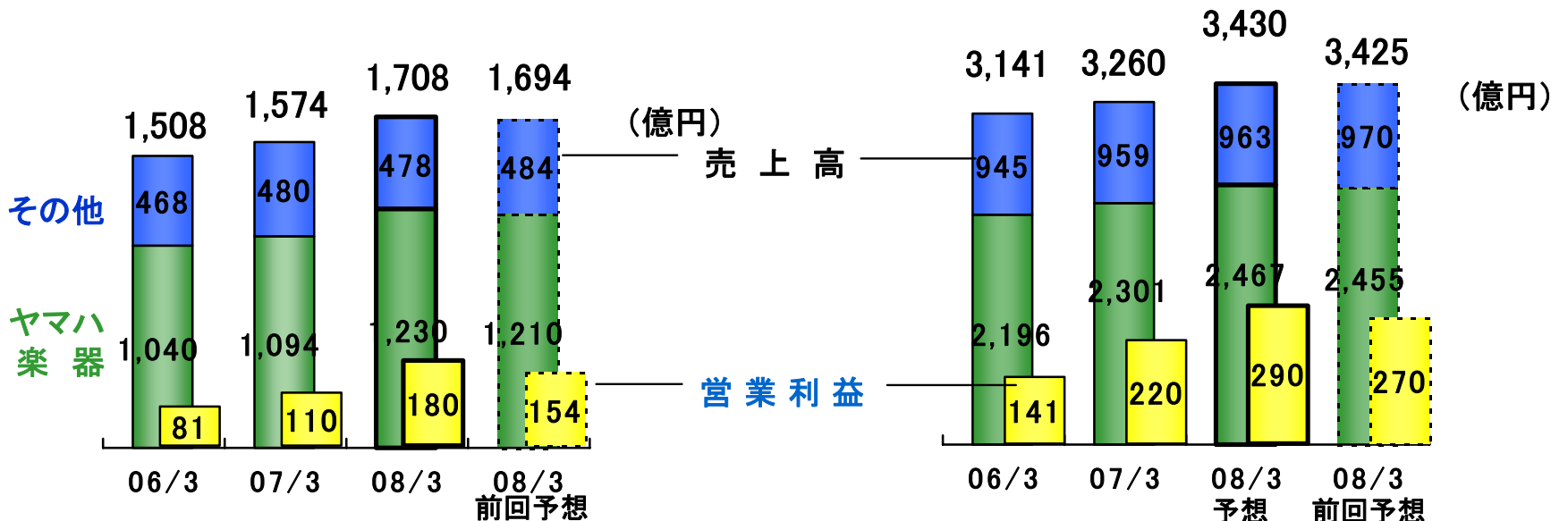
( )内は前期比  
または  
前回予想比

前期との比較での為替影響は+83億円  
(楽器+62億円、AV・IT+20億円)  
また、前回予想との比較では+31億円  
(楽器+23億円、AV・IT+8億円)

前期との比較での為替影響は+65億円  
(楽器+53億円、AV・IT+12億円)  
また、前回予想との比較では+14億円  
(楽器+12億円、AV・IT+2億円)

## 上期の状況

- ・対前年同期、対前回予想とも増収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比4.1%の増収。中国等新興市場、欧州好調継続。北米、国内も前年同期並み
- ・商品別にはPA機器、電子楽器が対前年同期大幅増。
- ・営業利益は、増収、為替益に加え、売上構成の変化、コスト削減効果等により売上総利益率が改善し、対前年同期、前回予想とも増益
- ・為替影響を除いた上期末在庫はほぼ前回予想並み



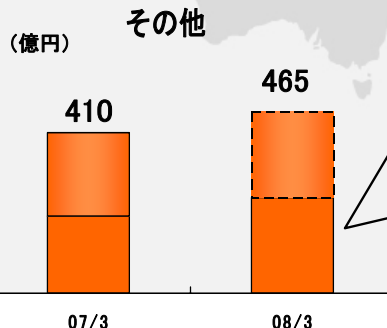
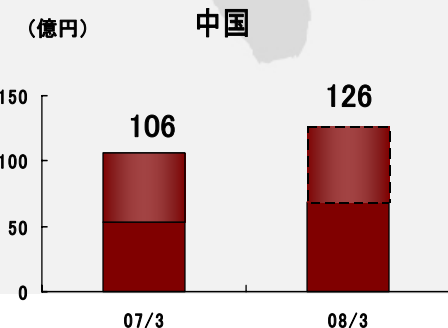
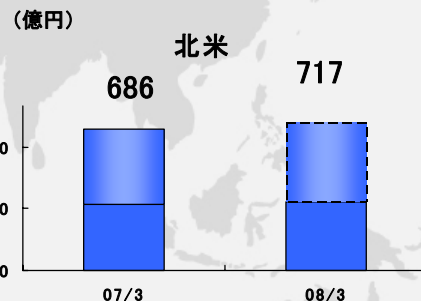
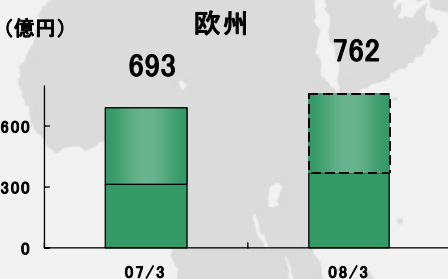
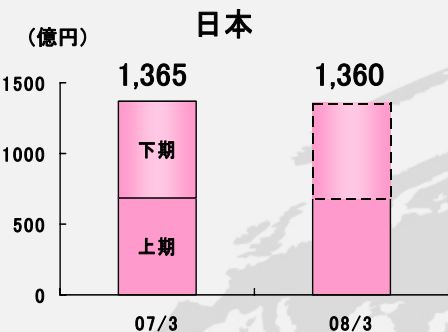
## 通期の状況と下期の重点施策

- ・通期業績予想を売上高 3,430億円、営業利益290億円へ上方修正
- ・年末商戦に合わせた新商品の確実な市場導入と拡販
- ・業務用音響機器ビジネス強化拡大
- ・新興市場での拡販(中国、ロシア、東欧等)
- ・増産対応とコスト競争力強化(杭州ヤマハ、インドネシア、ピアノ掛川工場)

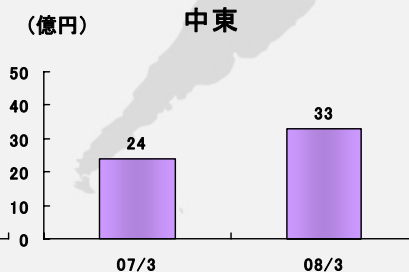
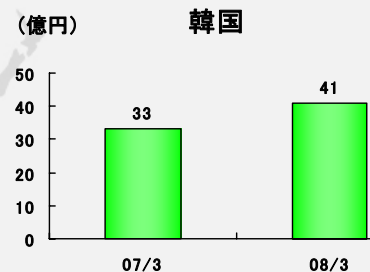
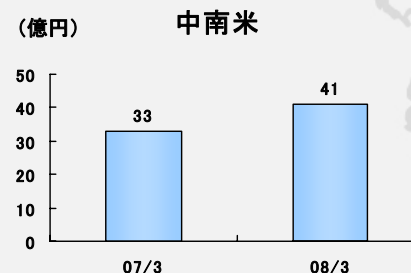
# 楽器事業(地域別の販売状況)



- ・上期での為替を除いた実質ベースでの前期比増減  
日本(±0%)、北米(±0%)、欧州(+8%)、  
中国(+21%)、その他地域(+13%)
- ・通期での為替を除いた実質ベースでの前期比増減  
日本(±0%)、北米(+1%)、欧州(+4%)、  
中国(+19%)、その他地域(+10%)



## 成長市場の上期売上高



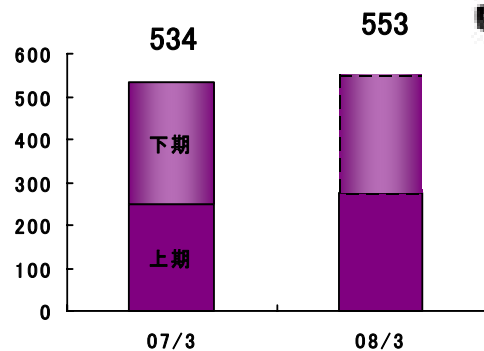


# 楽器事業(商品別の販売状況)



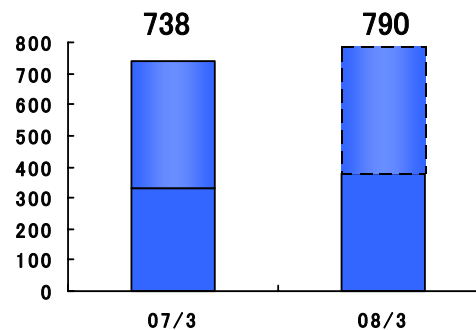
(億円)

## ピアノ



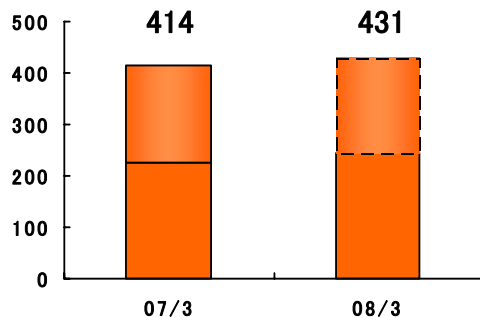
(億円)

## 電子楽器(エレキ除外)



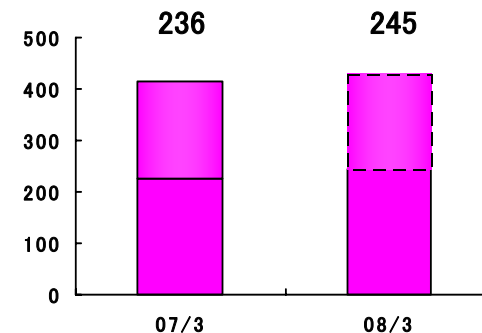
(億円)

## 管楽器

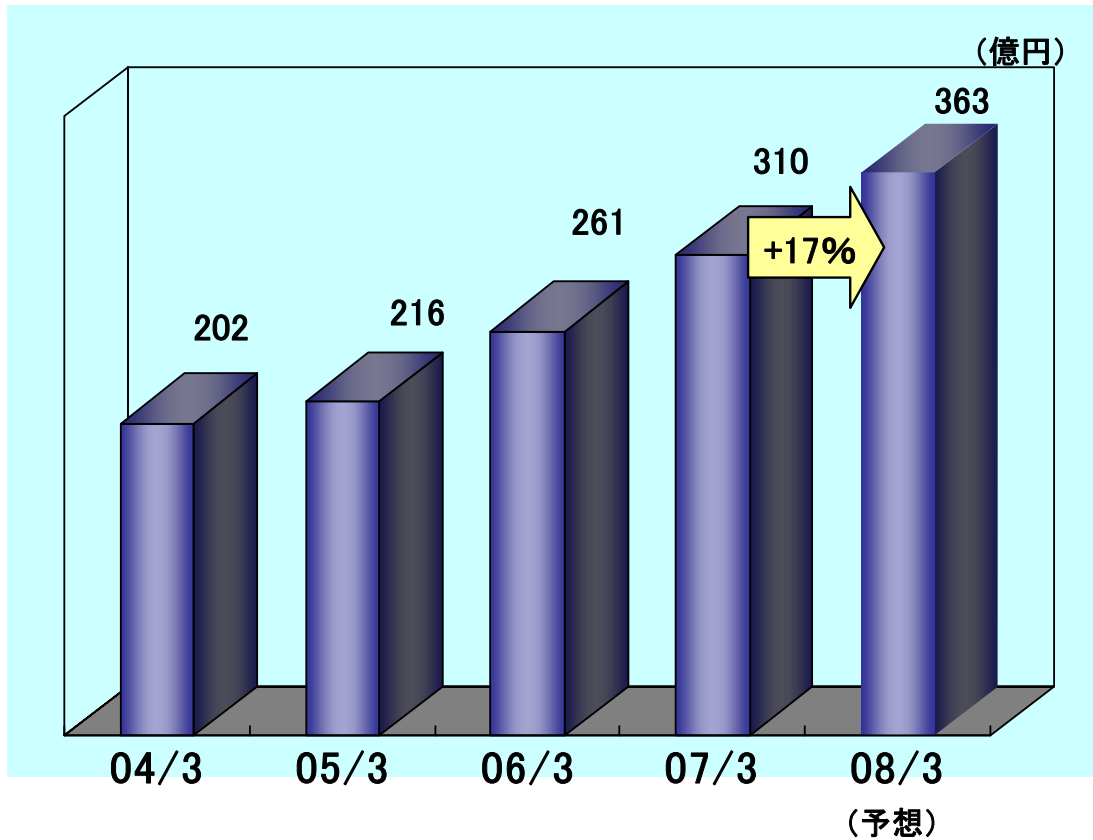


(億円)

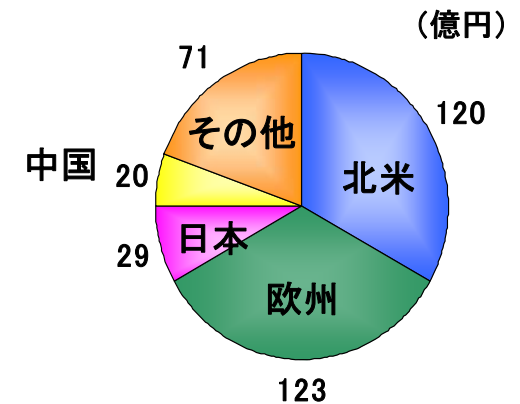
## 弦打楽器



# PA機器事業での成長



## 08/3期での売上高予想



LS9-32



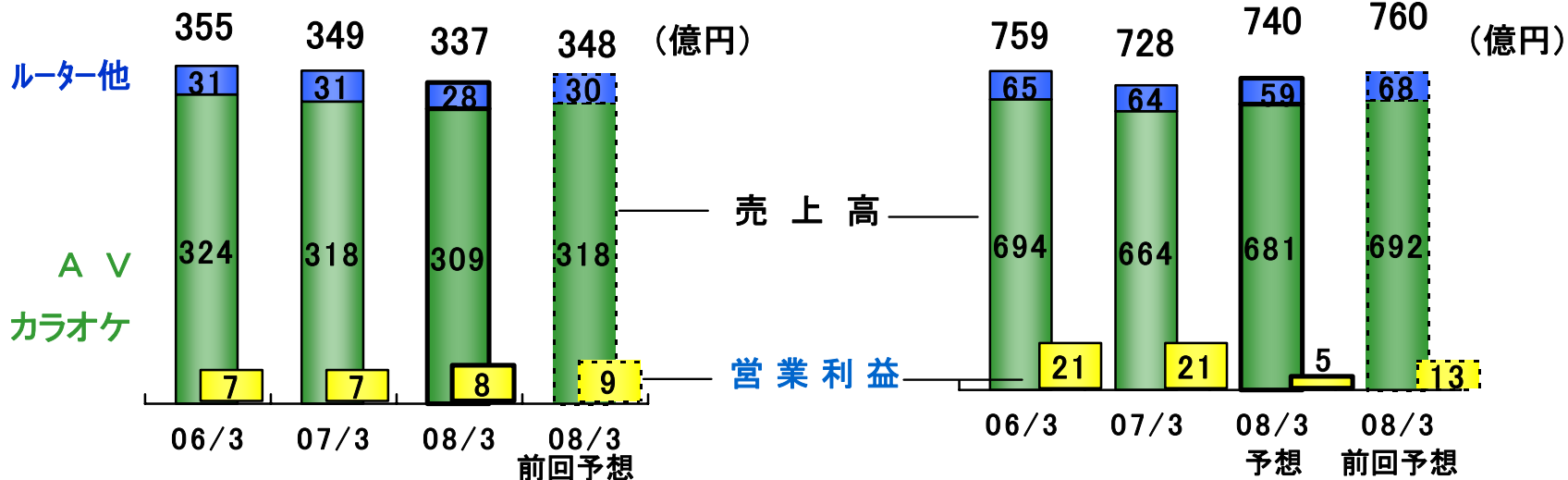
STAGEPAS 300

## 上期の状況

- ・対前年同期減収、営業益微増。対前回予想では減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は前年同期比9.2%の減収。通信カラオケ機器が対前年同期半減
- ・営業利益は、ユーロ高に伴う為替益の発生もあり、対前年同期微増
- ・上期末在庫は、為替影響を除いた実質ベースでは、ほぼ前回予想並みの水準

## 通期の状況と 下期の重点施策

- ・通期売上高予想を20億円下方修正し740億円の計画。営業利益予想も、5億円へ下方修正
- ・年末需要期でのAV商品拡販
  - フロントサラウンド商品
  - 中高級を中心とする2ch Hi-Fi
  - デスクトップオーディオ等新領域商品
- ・ルーターは、市場が縮小する中で、差別化提案による売上確保
- ・会議システムの認知度向上と販路開拓

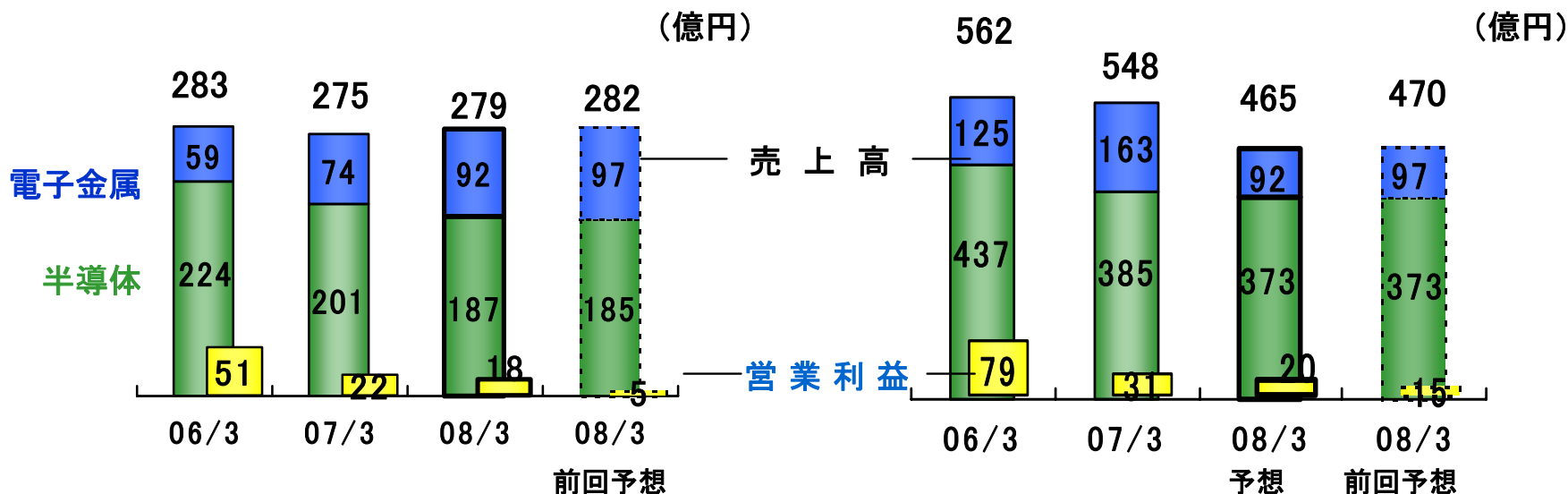


## 上期の状況

- ・ 対前年同期増収減益。前回予想に対しては増益
- ・ 携帯電話用音源LSIは、一段の需要減少。デジタルアンプは薄型TV、携帯電話向け等出荷拡大
- ・ 電子金属は、材料価格の上昇に伴う価格転嫁により対前年同期増収増益

## 通期の状況と下期の重点施策

- ・ 携帯音源LSI、コーデック等の携帯端末向けLSIおよびアミューズメントLSIの売上確保
- ・ デジタルアンプ市場投入の加速
- ・ シリコンマイクのスムーズな生産立上げ
- ・ 電子金属材料事業の事業譲渡は当初計画より2ヶ月遅れの11月30日の予定。但し、下期より、非連結会社とするため、下期での売上高、利益は発生しない

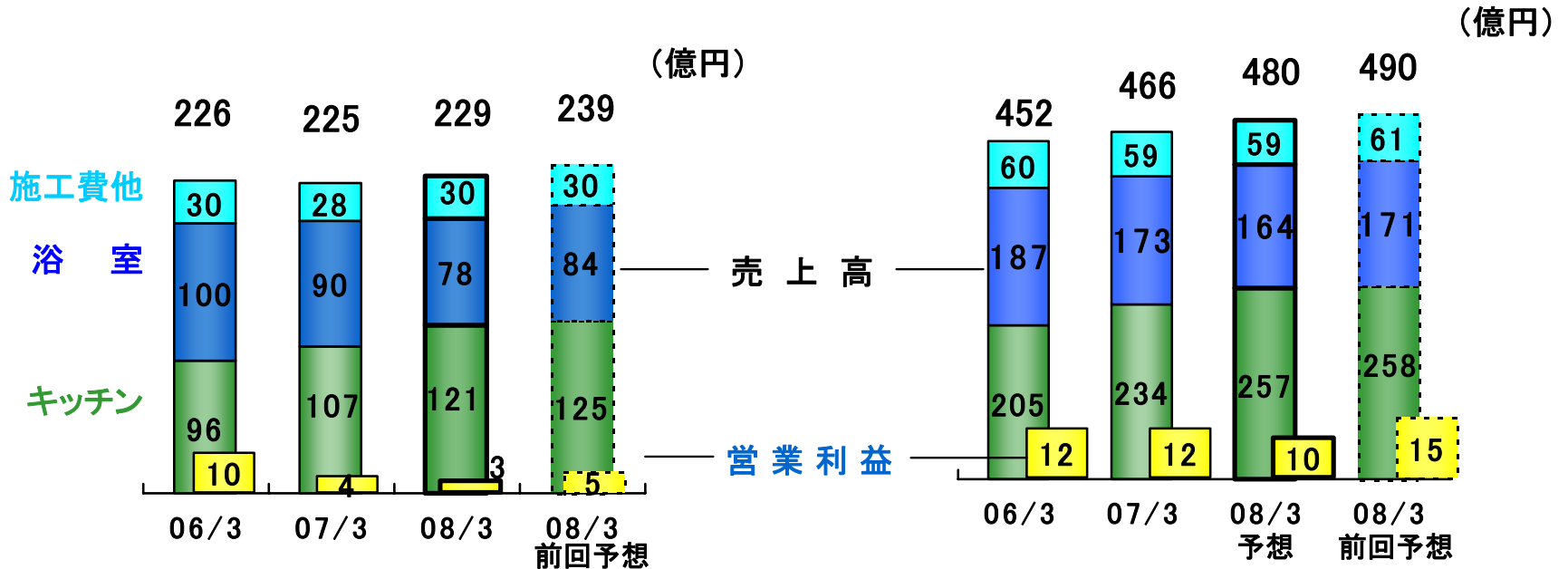


## 上期の状況

- ・対前年同期増収減益。前回予想に対しては減収減益
- ・浴室単価下落と建築確認申請遅れにより売上げ減少
- ・システムキッチンは、引続き好調維持するものの、販売単価はダウン傾向。浴室は低価格化進行で対前年同期未達
- ・営業利益は、材料価格の高騰と単価ダウンに伴う売上総利益率の低下で、対前年同期、前回予想とも減益

## 通期の状況と 下期の重点施策

- ・通期業績予想は対前回予想減収減益の計画
- ・差別化商品投入と販促施策展開による売上の確保
- ・リフォームビジネス対応強化
- ・生産工程合理化と調達力強化による製造コストダウン推進

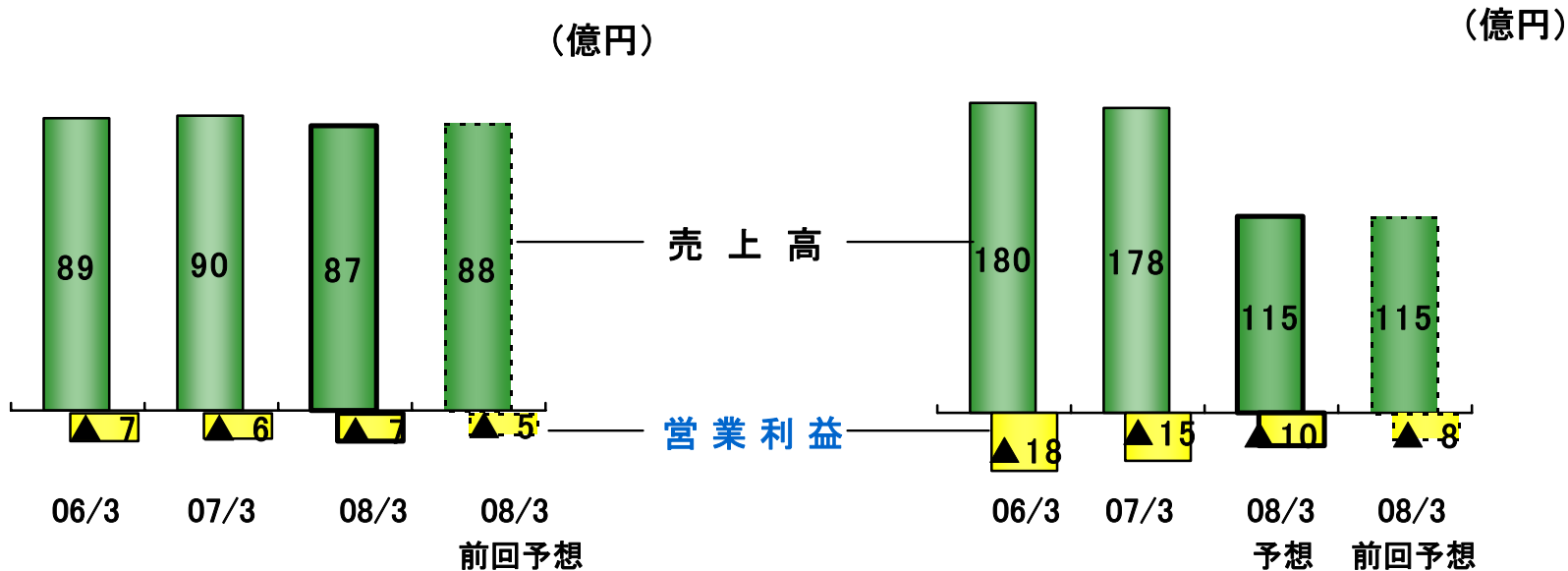


## 上期の状況

## 通期の状況と 下期の重点施策

- ・対前年同期減収減益
- ・全体の集客減少を単価アップで補えず、対前年同期減収。  
特に、「キロロ」が大幅な売上減少
- ・減収に伴い、営業損失幅拡大
- ・4施設は、10月1日にて譲渡完了

- ・通期営業利益予想を下方修正
- ・残した2施設での集客確保と一層の営業効率向上により、損失幅の圧縮を目指す



# その他の事業

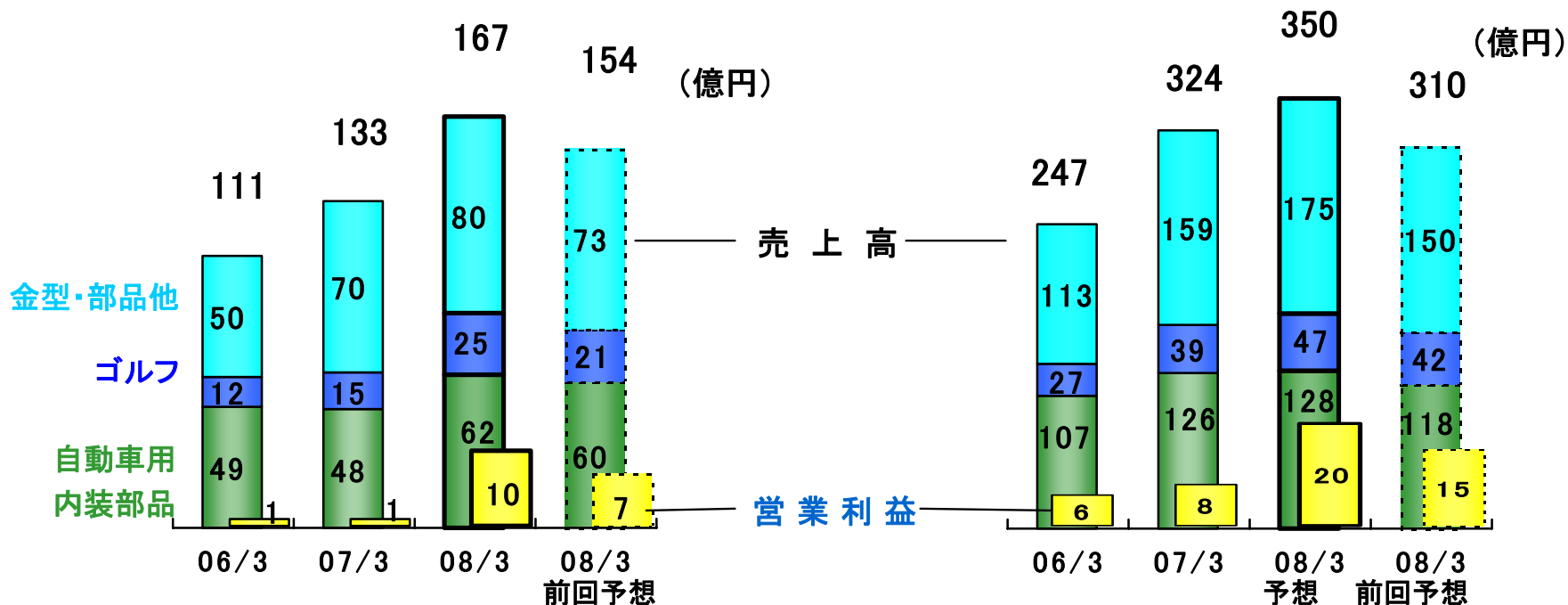


## 上期の状況

- ・対前年同期、対前回予想増収増益
- ・金型・部品事業は、Mg、PIとも増産。特に、Mg部品はデジタルカメラ用途に安定的な受注。
- ・自動車用内装部品は、増産と歩留まり改善で対前年同期大幅な損益改善
- ・ゴルフは国内外とも好調継続

## 通期の状況と下期の重点施策

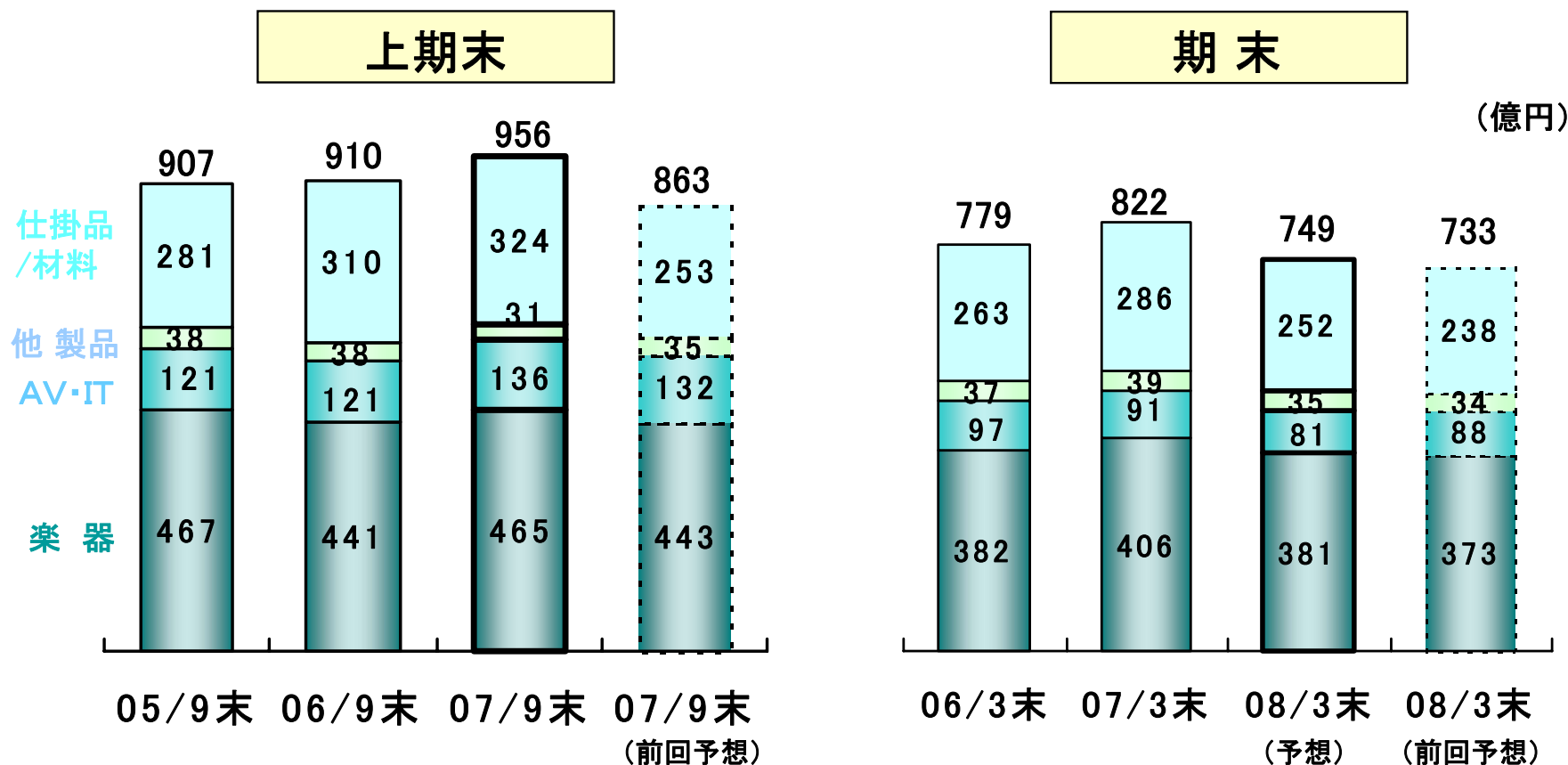
- ・通期業績予想を上方修正
- ・自動車用内装部品、金型・部品事業とも、増産対応と歩留まり改善による製造原価の低減に注力
- ・自動車用内装部品は次期モデルのスムーズな生産立ち上げ準備
- ・ゴルフは引続き、ブランド認知度の向上と新製品の着実な市場導入



# 棚卸資産



- ▶ 上期末在庫は、為替要因(33億円)および電子金属事業の譲渡時期延期(53億円)を除けば、ほぼ前回予想並みの水準。  
前年同期に対しては材料在庫の増加で実質26億円の増加

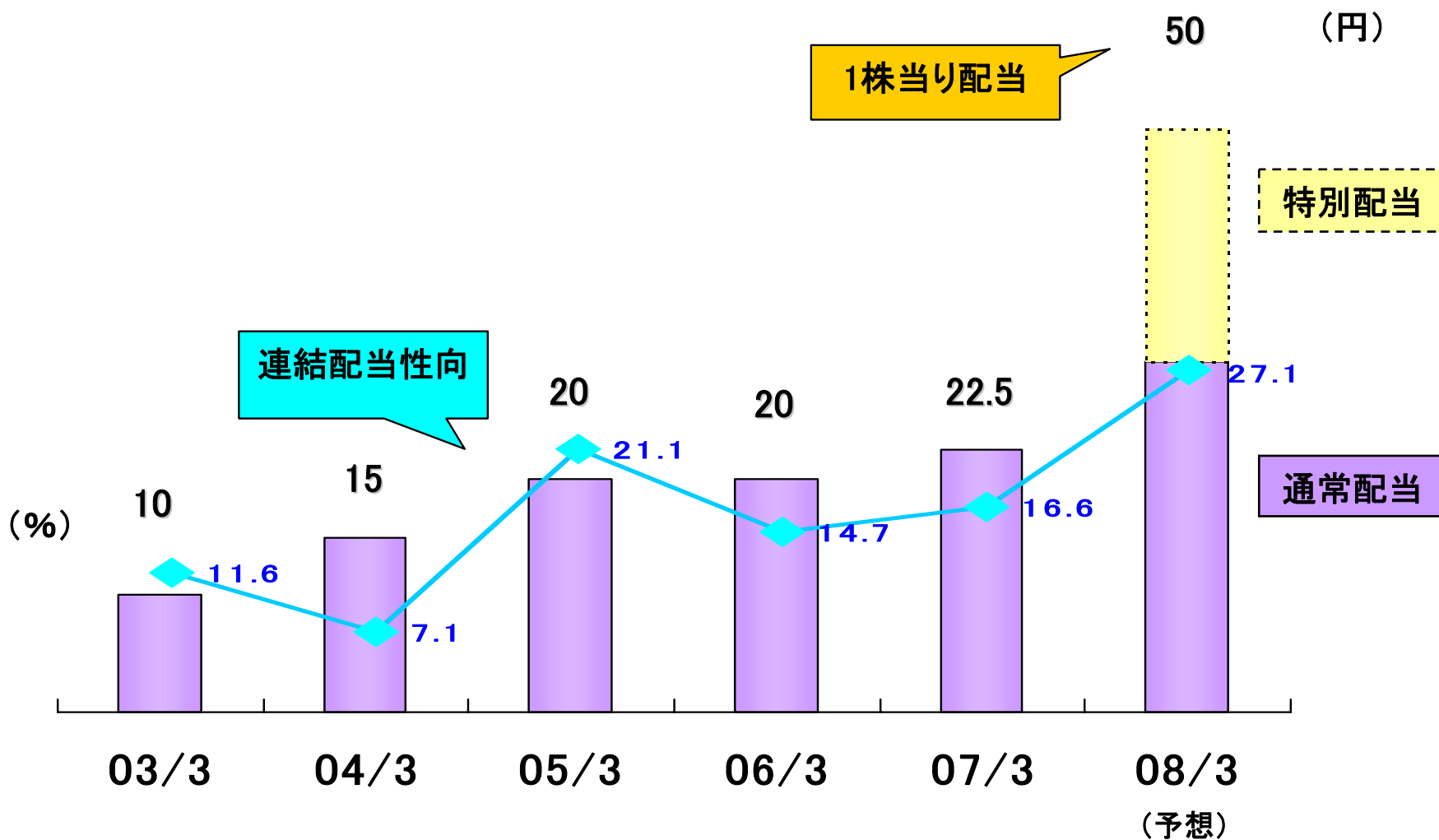




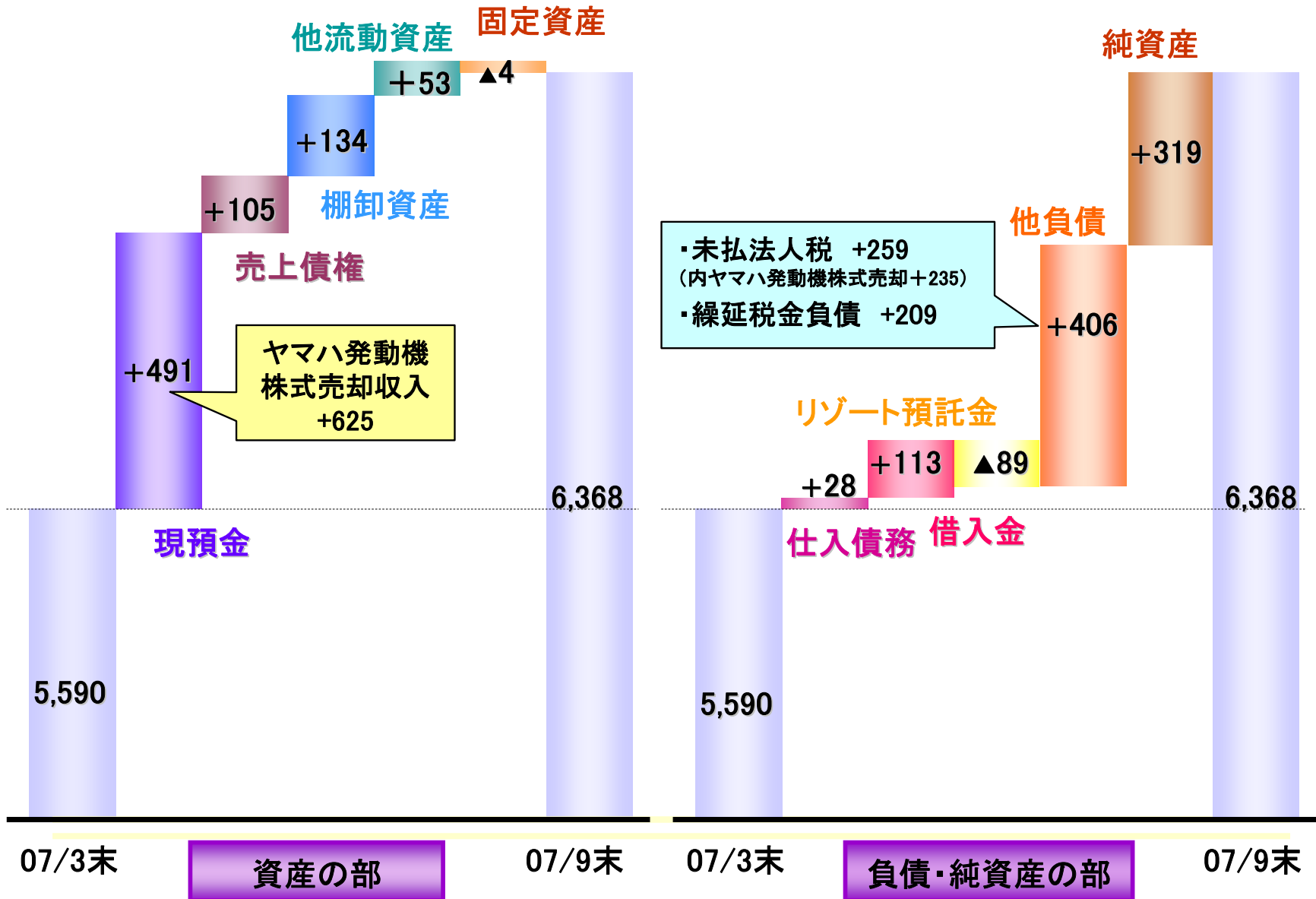
# 株主配当



➤ 当期年間配当は、50円の予定(通常配当30円、特別配当20円)



# 貸借対照表の増減要因



# 予想貸借対照表



(億円)

	06/3末	06/9末	07/3末	07/9末	08/3末
現預金	364	350	467	958	1,060
売上債権	703	857	766	871	719
棚卸資産	779	910	822	956	749
他流動資産	248	255	255	308	249
固定資産	3,106	3,192	3,280	3,276	3,194
<b>資産計</b>	<b>5,200</b>	<b>5,564</b>	<b>5,590</b>	<b>6,368</b>	<b>5,971</b>
仕入債務	372	435	432	460	363
借入金	285	392	256	369	201
リゾート預託金	276	270	267	178	168
他負債	1,062	1,097	1,121	1,527	1,441
純資産	3,205	3,370	3,514	3,833	3,798
<b>負債・純資産計</b>	<b>5,200</b>	<b>5,564</b>	<b>5,590</b>	<b>6,368</b>	<b>5,971</b>

※07年9月末の現預金残高には譲渡性預金 254億円含む

# 中期計画「YGP2010」の進捗



## 1. “The Sound Company”領域での成長

重点施策	取り組み状況
トータルピアノ戦略によるピアノ事業拡大	・推進プロジェクトスタート、新商品開発着手
ギター事業成長への基盤整備	・品質向上と供給力強化への取り組み開始（杭州、インドネシア）
業務用音響機器ビジネスでの成長	・協業による成長加速 NEXO社向けOEMアンプ供給 不二音響とのシナジー効果による国内ビジネス拡大
エマージング市場での成長戦略推進	・ロシア現地法人設立（2008/4月より本格活動） ・中国音楽教室拡大（08/3末在籍3,000名目標）
音楽ソフト関連ビジネスの事業基盤整備	・組織再編は予定通り ・外部映像コンテンツ会社と合併会社設立
アコースティック楽器生産拠点整備	杭州、インドネシア増産対応、国内ピアノ生産拠点統合進行
会議システム事業ユニットの確立	市場導入遅れ
戦略的M&A、提携の積極化	推進体制の整備

## 2. “多角化事業”領域での収益力強化

重点施策	取り組み状況
レクリエーション事業 4施設譲渡	・当初計画に対し2ヶ月遅れたものの、10月1日に引き渡し終了
電子金属事業譲渡	・11月30日を予定(当初予定より2ヶ月遅れ)
自動車用内装部品事業	・ヤマハファインテックへの事業移管 ・歩留まり改善により黒字化



# 付属資料

# 2008/3期 上期営業外損益、特別損益



07/3(上期)実績

08/3(上期)実績

08/3(上期)前回予想

## 営業外損益

(億円)

持分法利益	102	1	受取配当金 17	0	受取配当金 17
金融収支	2	18		16	
その他	▲13	▲16		▲21	
計	+ 91	+ 3		▲ 5	

## 特別損益

固定資産処分損益	▲6	9	ヤマハ発動機株式 売却益 278	▲6	ヤマハ発動機株式 売却益 278
その他	▲15	273		291	
計	▲21	+282		+285	

## 法人税他

法人税等	30	185		152	
少数株主利益	3	5		3	
計	33	190		155	



# 2008/3期 通期営業外損益、特別損益



	07/3実績	08/3今回予想	08/3前回予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
持分法利益	178	1	0
金融収支	1	25	24
その他	▲30	▲41	▲44
計	+ 149	▲15	▲20
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	▲11	7	▲8
その他	▲84	288	298
計	▲95	+ 295	+290
<b>法人税他</b>			
法人税等	47	229	229
少数株主利益	5	6	6
計	52	235	235

受取配当金 27

受取配当金 27

リゾート減損損失 ▲47  
海外工場解散 ▲32  
特別退職金 ▲7

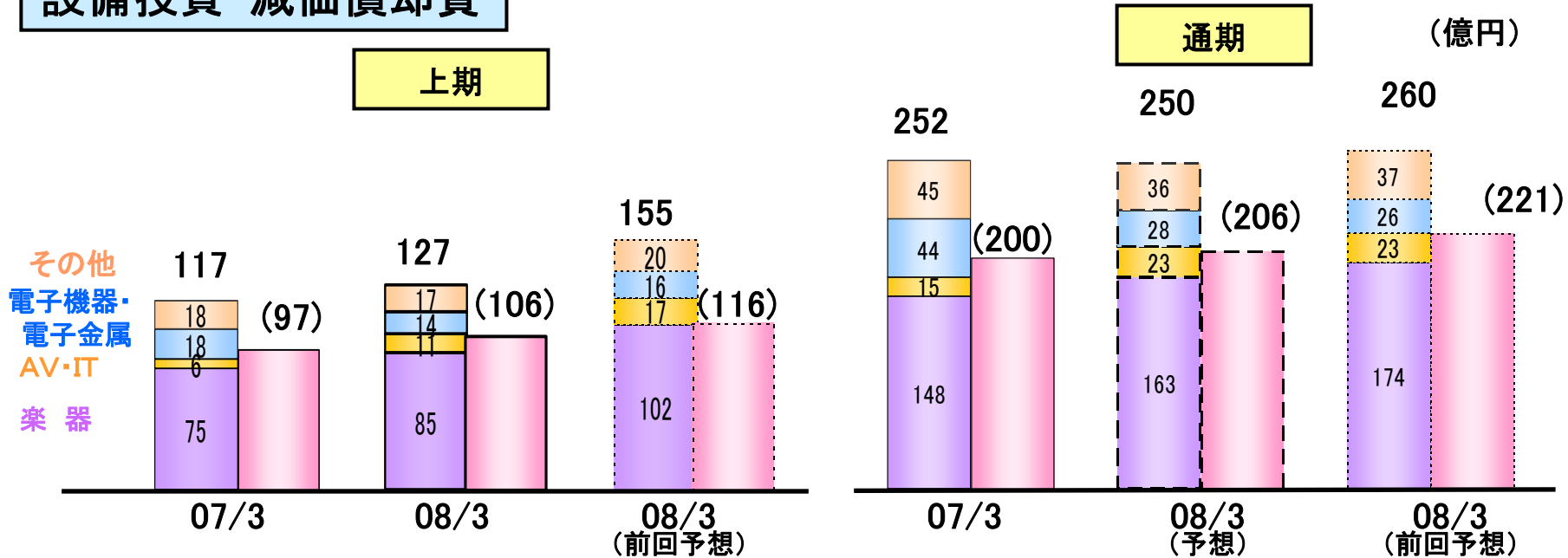
ヤマハ発動機  
株式売却益 278

ヤマハ発動機  
株式売却益 278

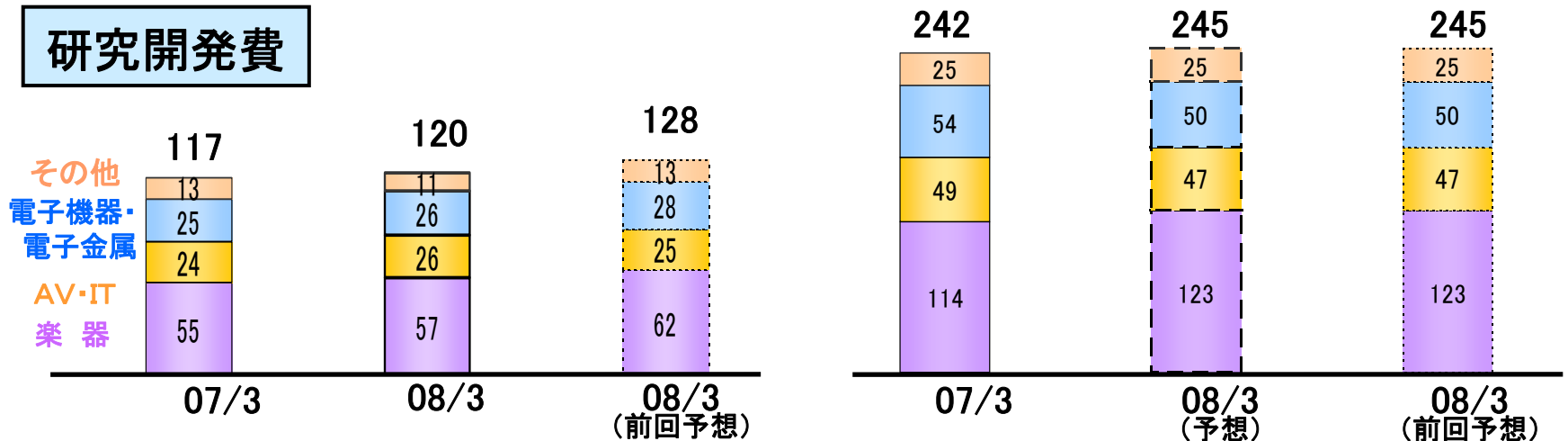
# 設備投資・減価償却費/研究開発費



## 設備投資・減価償却費



## 研究開発費



# 下期の重点商品(1)



## ●グランドピアノ「C」シリーズ

グランドピアノの基本ラインナップであるCシリーズを7年半ぶりにモデルチェンジ。日本 6月発売開始。  
初年度目標販売台数9200台



C3

## ●デジタルピアノ P-85

様々なシーンでの演奏を可能にするポータブルタイプのデジタルピアノ。カラーは黒・シルバーの2タイプ。  
初年度販売予定3万台。  
P-85 オープンプライス 11月発売予定



P-85

# 下期の重点商品(2)



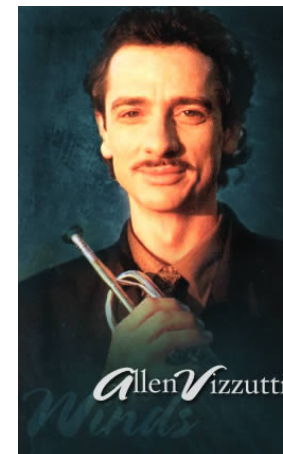
## ●管楽器アーティスト共同開発モデル

パリ在住の国際的フルーティスト工藤重典氏をパートナーに、ヘッドジョイント・管体とも新設計のハンドメイドフルート:

メルヴェイユ

アメリカ在住のソロトランペット奏者、Allen Vizzutiと共同開発した高級トランペット:

YTR-9335VS



## ●デジタルミキシングシステムDSP5D

デジタルコンソールPM5Dのチャンネルを拡張するDSPボックス。PM5D V2に最大2台までDSP5Dが接続可能となり、大規模なシステムに対応可能。

DSP5D オープンプライス 8月発売



DSP5D

# 下期の重点商品(3)

## ●TV周辺機器：薄型TV向けホームシアター商品を拡充

### デジタルサウンドプロジェクター YSP-4000

- ・HDMI ケーブル一本で簡単接続
  - ・対応テレビのリモコンで連動操作可能
  - ・インテリア性重視のTVラック一体型システムも発売
- 10月発売 初年度販売目標 40,000台



## ●HiFiオーディオ：高級HiFi分野で「音のヤマハ」を再び追求

YSP-LC4000

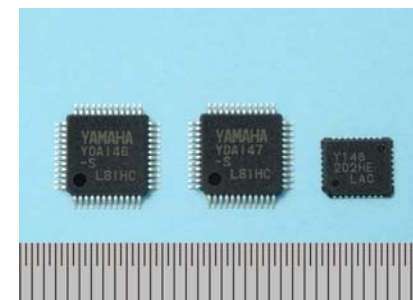
### プリメインアンプ A-S2000 / CDプレーヤーCD-S2000

- ・ノイズの影響を受けにくい独創的な高音質回路技術を採用
  - ・音楽ファン、オーディオファン、団塊世代をターゲット
- 12月発売 初年度販売目標 各4,000台



## ●デジタルアンプIC

- ・デジタルアンプとして、従来のアナログアンプに比べ、省電力化、低発熱性を実現
- ・ヤマハ独自の回路技術により、低歪率特性と低ノイズ特性により、優れたオーディオ音質を実現
- ・携帯電話用、LCDテレビやプラズマテレビ用として大きな需要を見込む

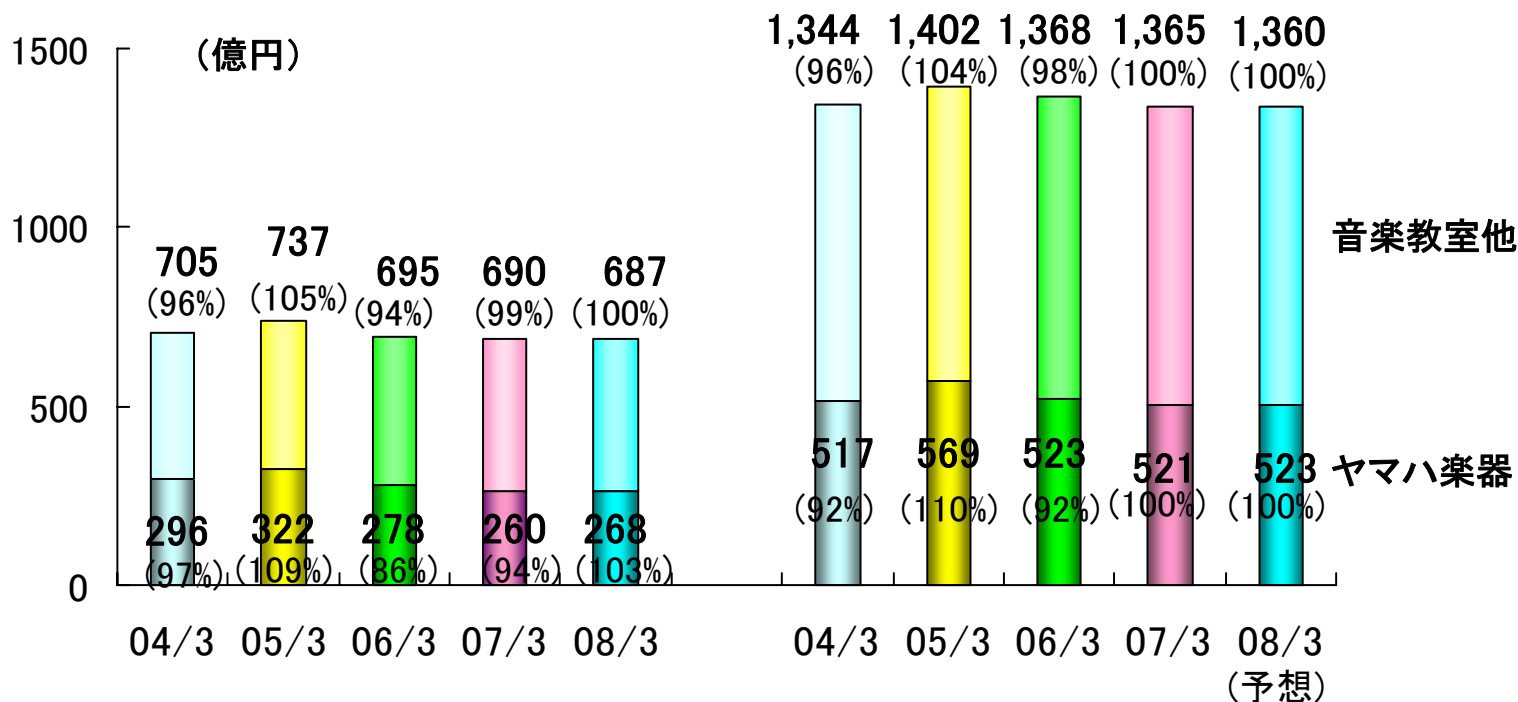


デジタルアンプIC

# 日本市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



グランドピアノ新商品投入で販売下げ止め、デジタルピアノ市場の拡大による  
 拡販、高級管楽器及び業務用音響機器の伸張等により、市場全体が縮小傾向  
 の中、前年並みを維持。



上期実績

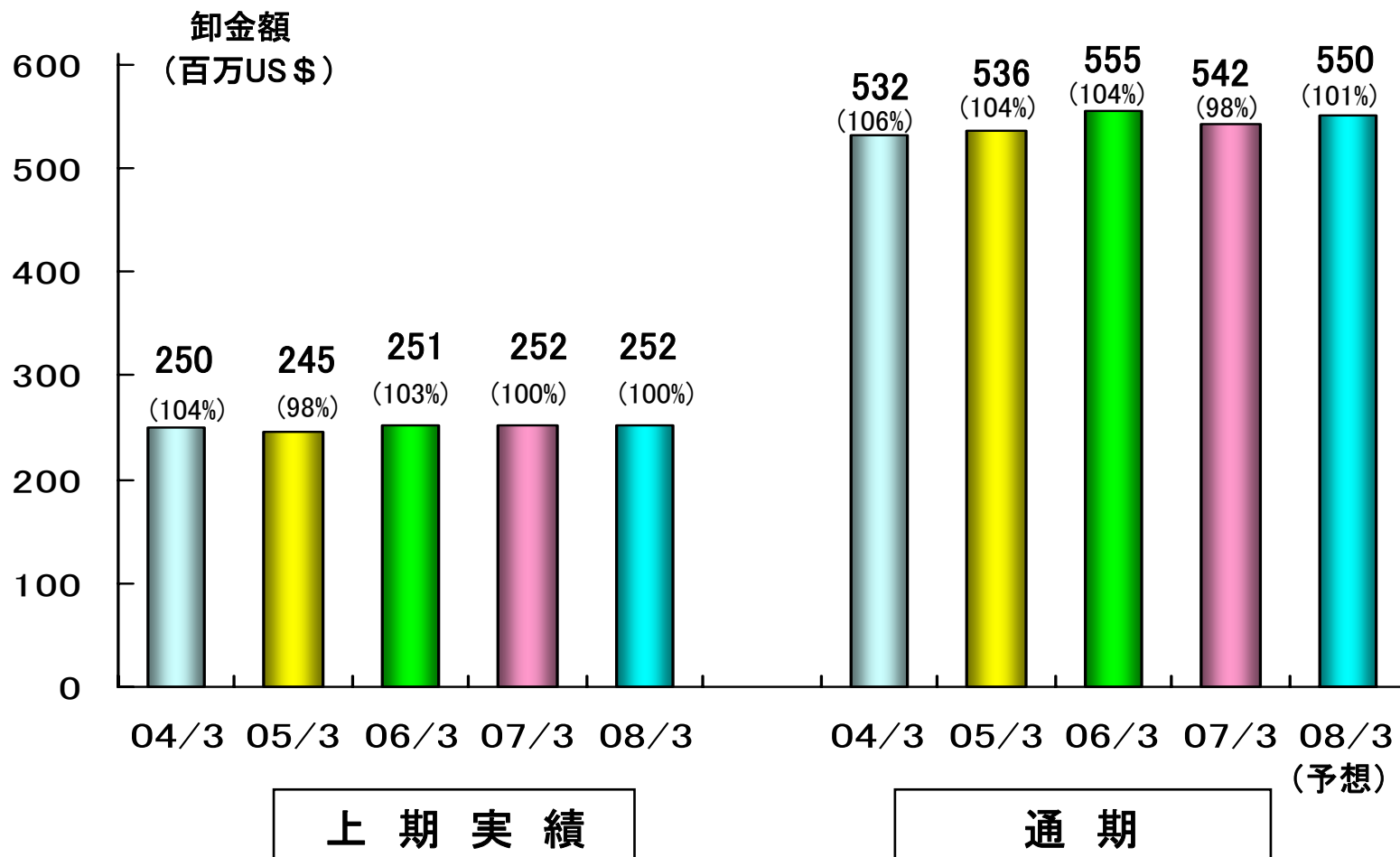
通期

( )内は前年同期比

# アメリカ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



昨年来の楽器需要減に歯止めはかかったが、サブプライム問題による金融不安で、ピアノ市況は拡大にまでは至らず。業務用音響機器が好調を継続している他、下期には電子ピアノやシンセサイザーなどの新商品で販売増が見込まれている。

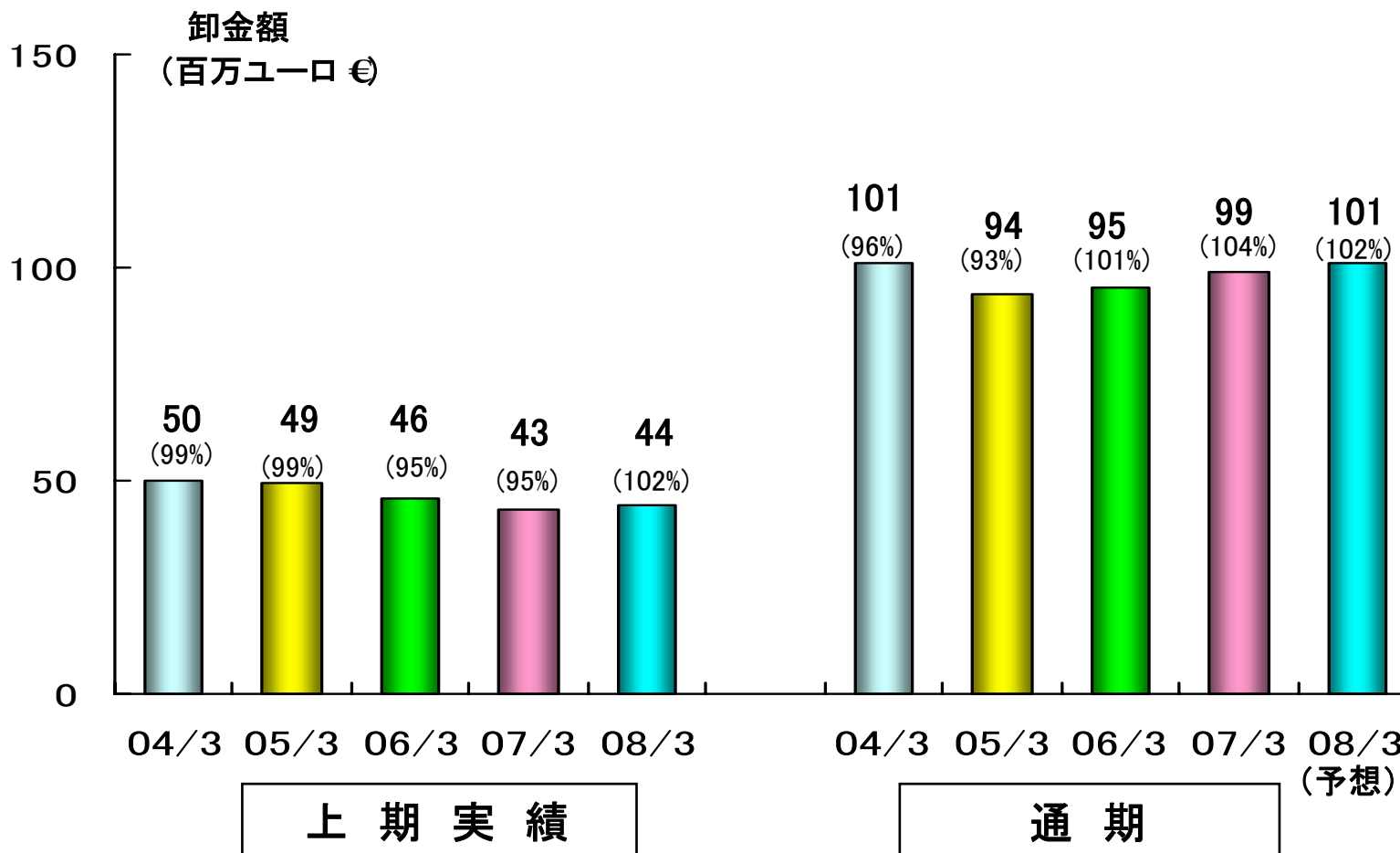


( )内は前年同期比

# ドイツ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



経済成長を背景に販売は安定。上期にはアップライトピアノ新商品が貢献したほか、下期にも電子ピアノ・ポータブルキーボード新商品の拡売を見込む。設備用音響機器は好調を継続。



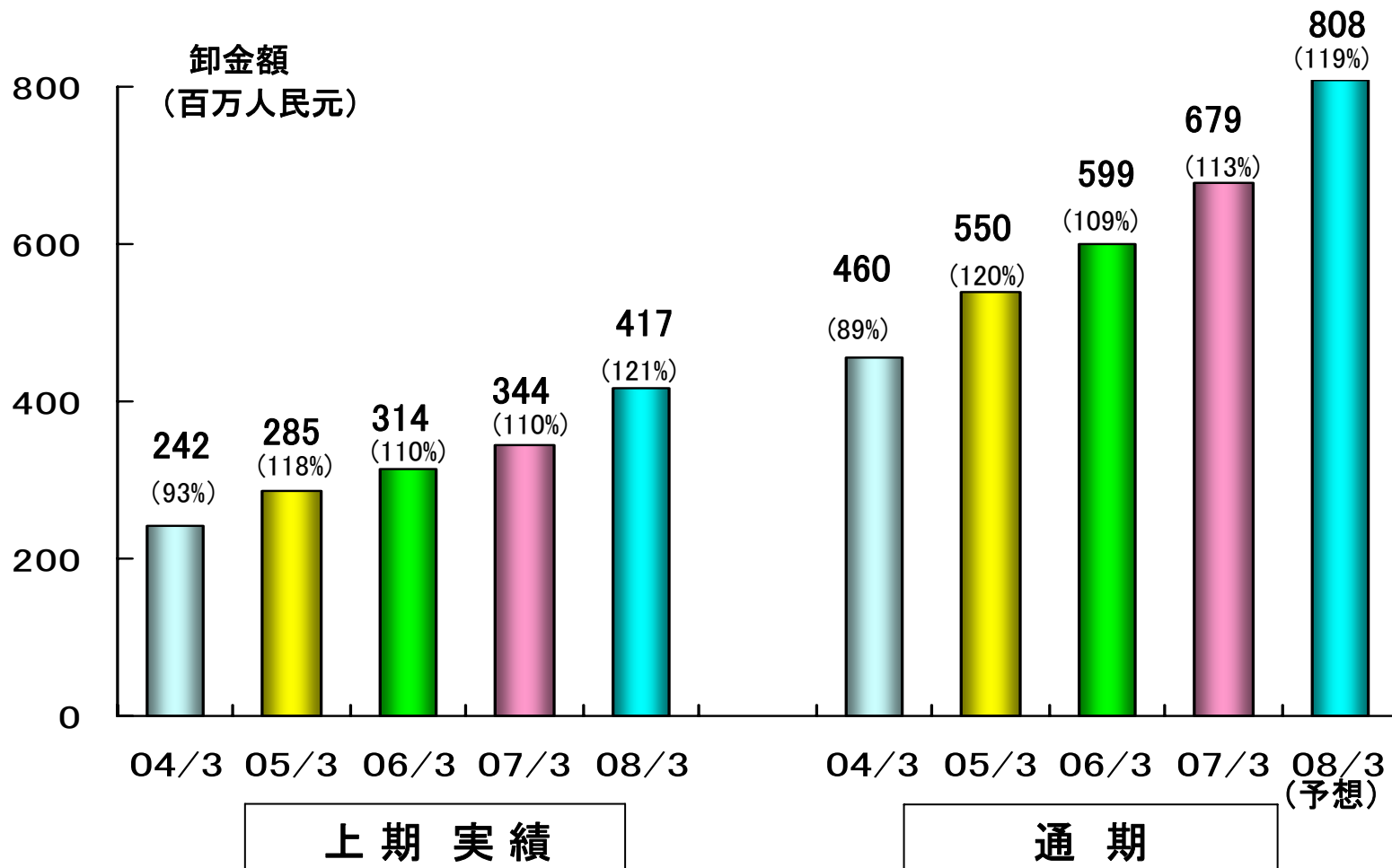
( )内は前年同期比



# 中国市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



中国経済は2桁成長を持続(2007年上半期GDP実質成長11%台)するも、楽器市場での成長は限定的。その中で、ピアノ市場でのシェアアップとPA販売の大幅増を中心に、年率約20%の成長を果たす。



( )内は前年同期比

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。